

五

「職場のリアルな実態から選挙を考える」⑤

障害者施設職員・Bさん（女性）

私

は重度の障害者施設で働いています。

入居者は自分で殆ど動くことも、話すこともできないため、わずかなサインを感じとって介助・支援をしています。

職場では通常の夜勤では月4回程となっていますが、今は人手不足のため6〜8回やらないと勤務が回りません。誰かが休むと迷惑をかけるので、ついつい無理して働いてしまいます。そのために腰痛やストレスが悪化して休職や退職に追い込まれる人が多く、また人手が足りなくなるという悪循環になっています。

福祉の仕事は、マニュアルに沿って入

居者を「守る」「支援する」というだけの仕事では済まされない、

心と心の触れ合いのよききめ細かい対応は求められる仕事です。

そういう意味では、支援する側の労働者が豊かにならないと、

質のいい福祉は生まれません。やりがいのある仕事なのに、低賃金や過重労働が人材不足につながっています。

配置基準を改善し、処遇改善をしつかりとやって、福祉の仕事に希望が持てるようにして欲しいです。

